

附属学校

中央大学高等学校

■ 後楽祭～2,000人を超える来場～

本校の文化祭である後楽祭を9月15、16日にわたって開催しました。一般公開日である16日は天候にも恵まれ、2,000人余りの来場者で賑わいました。

「青は愛より出でて、愛より青し」のテーマの下、文化祭実行委員会が各種企画を立案しその日を迎えることが出来ました。

展示部門の目玉であるモザイクアートは「なでしこジャパン」であり、1年生が中心となって制作したもので多くの方々の目を引いていました。各種模擬店、お化け屋敷をはじめとするアトラクションなども生徒の努力の跡がうかがえたもので、保護者の皆さまも楽しまれた様子でした。

初日は校内関係者を対象とした開催でした。そこでは映像・芝居・ステージ発表という3部門にクラス単位でエントリーし、その出来を競い合いました。最

優秀として選ばれたのは3年C組の映像作品であり、述べ40時間に及んだ撮影だけあって、見ごたえのある作品に仕上がっていました。

この作品は学校説明会の開始前に一般公開し、好評を博しました。

■ 体育祭 ～応援団の熱演～

同じ27、28日には体育祭を例年通り六義公園運動場で行いました。2日目の雨天が心配されたために、主要プログラムを1日目に移動するなどの変更を行いました。体育祭運営委員の生徒達の頑張りによってスムーズに進行し、結局2日間全プログラムを実施し閉会しました。

初日に行った応援団によるパフォーマンスは、7月から練習を重ねて来たものであり、4つに分かれた団による「応援合戦」に対しては生徒のみならず、観戦に訪れた保護者の皆さまの熱い拍手が贈られていました。



(上)後楽祭。テーマは「青は愛より出でて、愛より青し」 (下)体育祭の様子

中央大学杉並高等学校

■ 『日本一わかりやすい簿記の授業』

本校では、過去11年間に約70名の公認会計士合格者を輩出してきました。一学年が約300名規模の学校としては、驚くべき数字と言っているでしょう。背景には、中央大学経営研究所の協力のもとに、高校生でも無償で受講できる簿記講座や、本校の土曜講座の中で開講されている簿記講座の存在を挙げることができます。高校在学中に簿記の仕組みを知り、学ぶことの面白さを実感することで、大学進学後の勉強にも繋がります。高校生の段階で、日商簿記2級を取得する生徒も珍しくありません。

さてこのたび、本校・簿記講座の授業が、書籍として刊行されました。著者は、簿記講座の講師を長年務められた、本校OBの市川利夫先生です。本の中では、在校生や卒業生のインタビューも取り上げられています。

■ 国際ボランティア同好会発足

2012年度新たに、国際ボランティア同好会が発足しました。開発途上国の貧困や格差などを地球規模の問題として捉え、国際社会に貢献していこうとする態度を育成することを目的としています。これまでに、校内でエコキャップを回収し、ポリオ・ワクチンの購入を援助したり、南アフリカの子供たちのためにサッカーボールや英語の絵本を寄付する活動などを行ってきました。

また、フィリピンのスラム地区で暮らす子供たちのためにサンダルを集め、船便で現地へと届けました。経済格差は発展に伴って逆に拡大し、多くの地域は、貧困のため本を読んだり、スポーツを楽しむ環境ではありません。このような活動が、少しでも困っている人たちの助けになればと願っています。



(上)『日本一わかりやすい簿記の授業』

(下)フィリピンの子供たちとサンダル

中央大学附属中学校・高等学校

(上) 体験授業の様子



(下) 第2体育館で行われた100周年記念祝賀会の様子



■ 模擬裁判員裁判体験授業

中央大学ロースクールの全面的な協力を得て、中学3年を対象に模擬裁判員裁判体験授業を実施しました。架空の殺人事件をもとに作成したDVDを視聴した後、グループに分かれて犯人が有罪か無罪かを生徒間で評議しました。その後、模擬法廷教室において評議の際に指導にあたって下さった現職の弁護士の方より、評議内容の講評をいただきました。生徒達にとって、この体験授業は裁判員としての役割や責任について多くを学ぶ良い機会になりました。

■ プロジェクト・イン・サイエンス

中学3年を対象にしたこの授業の目的は、教科書の枠を離れて科学に対する興味や関心を高めることです。①レゴブロックで作成したロボットに、パソコンでプログラミングを施し、操作する②中学・高校に8つある実験室を利用し、普段の授業ではできない実験を行う③中央

大学理工学部の協力を得て、大学の実験室で物理・化学分野の実験を行う。

これら3つのプログラムを組み合わせで行うプロジェクト授業です。

■ 創立100周年記念式典

本来ならば2008年が本校にとって創立100年にあたりますが、2010年の中学校開校に集中しなければならなかった事情がありました。記念事業として、寄付金募集活動を実施し、2012年10月27日に100周年記念式典および祝賀会を開催しました。記念式典は学内外からのご来賓をはじめ、卒業生、生徒・保護者代表参列のもと厳粛に執り行われました。祝賀会では中大スウィング部のBGMで、和やかな雰囲気の中、100周年を祝いました。また、『中央大学附属中学校・高等学校「校史」1909～2012』と、生徒の優秀論文に与えられる「蒼穹賞」の受賞論文集成『表現する力』を発行しました。

中央大学横浜山手中学校・高等学校

(上) 全校生徒による「山手」の人文字



(中) 「友好の桜」の石碑



(下) 中正記念堂にて



■ 山手の丘最後の学園祭

“THANKS! 104年 山手魂”のスローガンのもと、横浜山手の地で最後の学園祭が行われました。

104年の歴史の中で、今を共有することになった全在校生たちが、ここに集い、学ぶことができる喜びとその思い出を「山手」の人文字に託しました。時が移り、場所が変わっても、この地で生まれたDNAは生徒たちによって継承されて行くことでしょう。今年は、保護者、卒業生、受験生とその保護者をはじめ、地元地域の皆さま、新校地周辺の方々にもご来場いただきました。日頃、通学や学校生活でご迷惑をおかけしながらも助けていただいている地元の皆さまに、本校生徒の活動の一端を披露することで日頃の御恩に感謝できたことを、生徒たちはとても喜んでいました。また、来年度移転予定の新校舎周辺地域の皆さまにお

出でいただいたことも、「謝恩礼節」の表れとして、生徒たちの企画力と実行力に成長を感じることができた出来事でした。今後も、課外の活動を通じて、本校の「過去」「現在」「未来」をともに支え、育んでいきたいと考えています。

■ 初めての海外旅行—台湾を訪ねて

11月4日から3泊4日の日程で本校2年生の修学旅行が行われました。経済学部の中川洋一郎先生による特別授業の後、現地で日本語世代の方々（友愛会）からお話をうかがうこともできました。また、訪れた228祈念館の展示品の中に中央大学の学帽を発見し、皆、驚いていました。

台湾の料理に舌鼓を打ち、九份や夜市、西門街でショッピングを楽しみ、天燈上げで大いに盛り上がり、高校時代最高の思い出を作ることができました。